



青武台だより



No.212

平成29年3月17日発行

目 次

ページ

1. 卒業生・修了生に贈る言葉	
校長	2
教育後援会会長・進和会会长	3
2. 卒業生クラス紹介	4~8
3. 修了生クラス紹介	9~10
4. 学生の将来と進路	11~12
5. 活躍する仲間	
第13回全国デザインコンペティションに参加して	13
第10回東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテストに参加して	13
第10回全国高専英語プレゼン文部科学大臣賞受賞報告	14
2016年少林寺拳法全国大会 in おおいた	14
第36回近畿高等学校総合文化兵庫大会将棋部門	15
全国高等専門学校ロボットコンテスト全国大会に参加して	15
第25回全国高等学校文化連盟将棋新人大会に参加して	16
平成28年度優秀学生賞	16
平成28年度 福井高専キャンパスプロジェクト概要	17~18
6. 研修旅行について	19~21
7. 校外研修について	21~22
8. 遠足について	23
9. 平成28年度外国人留学生見学旅行	24
10. 地域連携JOINTフォーラム2016を開催	24
11. 第22回マグネットコンテスト表彰式を実施	25
12. 中学生の皆さんへ	
中学校だより 越前市武生第三中学校	25
平成29年度入学者選抜について	26
平成29年度入学者選抜実施状況一覧	26
16. 学園通信	
退職にあたって	26~27
本校に着任して	27
平成28年度留学生懇親会	28
平成28年度福井工業高等専門学校卓越した学生 及び学生表彰受賞者	28~29
平成29年度教育後援会総会	29

独立行政法人国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校

National Institute of Technology, Fukui College

卒業生・修了生に贈る言葉



卒業・修了おめでとう

校長 松田 理

卒業ならびに修了を迎える本科176名、専攻科25名の皆さん、おめでとうございます。本校教職員、在校生を代表して心からお祝い申し上げます。

皆さんは、中学卒業後の早いうちから技術者の道を選択し、幅広い教養と専門分野での知識・技術を修得し、創造的・実践的技術者人材としての基本を身につけたことだと思います。これから、社会へ出る人、専攻科や大学院へ進学する人、道はそれぞれ違うかもしれません、大いに活躍していただきたいと思います。

さて、皆さんにはこれまでと異なる新たな環境が待っています。イギリスの実業家ロバート・オーワンが「人間は環境の子である」と言っているように、その新たな環境は皆さんの将来を大きく左右することでしょう。即ち、周りの環境や人間関係によって、多様性が生まれ、性格も否応なしに鍛えられます。どうか、目の前のことにも全力で取り組んで、大きく成長して欲しいと思います。

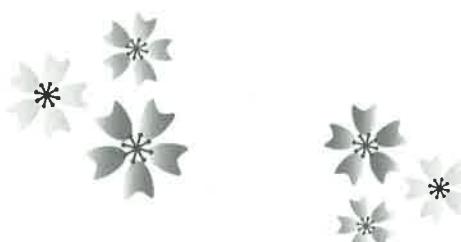
これからの時代は、人工知能、IoT、ビッグデータなどの技術革新を背景に、私たちの生活環境が大きく変わろうとしています。所謂、第4次産業革命の波です。あらゆるモノとサービスがインターネットでつながり、瞬時に情報が受発信され、それが人工知能によって制御、最適化される時代となります。また、ビッグデータを利用して機械と人間が繋がり、産業やサービスが格段に変わる時代がもうそこにやってきているのです。そこでは、産業構造だけでなく、個人の働き方も大きく変化し、時間の使い方や行動範囲も変わることになるでしょう。そのような中で、新しいモノやサービスを創造したり、新しい価値を生み出すことのできる人材が必要となってくるのです。つまり、技術者はこれまでのように単に画一的なモノを生産・供給するだけでなく、医療情報をはじめとする様々な生活情報に対応したシステムを創る能力を持たねばなりません。また、その

ようなビッグデータを活用し、効率が良く、便利な仕組みを社会に還元する企業自身もその社会的意義や創出理念を明確にしておかねばならないと考えます。

高専は、体験型学習や地域連携活動を通して技術者教育を行っており、皆さんは十分対応できる資質と能力を身につけてきています。従って、そのような技術の輪を地域から世界へ繋げていく人材として、大いに活躍できると確信しています。

昨年、東京工業大学栄誉教授の大隅良典先生がノーベル医学・生理学賞を受賞されました。その授賞式に高専の専攻科2年生が招待されました。具体的には、香川高専の学生ですが、日本国際賞(Japan Prize)で有名な国際科学技術財団から認められ、授賞式に参加できたというものです。財団は、若手科学者育成のための研究助成なども行っており、彼は「落ちても失うものはない」とその事業に応募したそうです。所謂、「挑戦する心」が良い結果に繋がったものと言えます。絶えず、向上心を忘ることなく努力すること、それが自分自身を成長させるということでしょう。

技術は人類の夢を実現するものであり、これからは特に人間環境や自然環境と調和した技術を求めて欲しいと思います。そして、文化的素養と豊かな感性ならびに高い倫理観を持つ人間として活躍されることを期待します。



卒業生・修了生に贈る言葉



輝かしい未来

教育後援会会長

森 かよ子

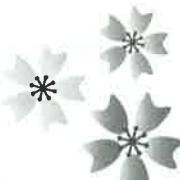
卒業ならびに修了を迎える本科及び専攻科の皆様おめでとうございます。教育後援会を代表して心からお祝い申し上げます。

皆さんは高専で学ばれ、社会で活躍するために必要な知識、技術を身に付けました。達成感と挫折感を味わいながら、友達、先生の支えの元、学び得た努力の賜物です。

進学、就職と進む道は違っても大人になる第一歩を踏み出します。今まで、先生方やご両親が守ってくれましたが、これからは自立していかなくてはなりません。自分の意思が尊重される一方、責任も大きくなります。社会に出て楽なことばかりでなく、困難なことにぶつかるときもあるでしょう。自分で悩み今までに学んだことを生かし解決してほしいと思います。しかし解決へと向かわないとき、もう一度見直すことも大切です。もう一つ忘れてほしくないのが、先輩や周囲の人に頼ることも選択肢の一つとして覚えておいてほしいです。最終的に決めたことが思った結果にならなくても、他人や環境のせいにして逃げないでください。受け止めることで一回りも二回りも大きくなります。

親として一言。皆さんが大人になり巣立っていくことは、とても嬉しく誇りに思います。でも困ったときには迷わず相談してほしいのが親心です。何も言ってくれず悩んでいる姿を見ることの辛さ。一緒に悩みたいと思っているので頼りにならないかも知れませんが相談してください。親はどんな時でも皆さんの味方だということを忘れないでください。

皆さんが輝かしい未来へ羽ばたいていくと確信しています。高専での生活を忘れず、頑張ってください。



福井高専ネットワーク

進和会会長

野 嶋 祐 記

卒業並びに修了を迎える本科及び専攻科の皆様、おめでとうございます。

私は土木12期の野嶋祐記（のじま ゆうき）と申します。昨年の総会におきまして、前会長の前川忠博様よりバトンを受けさせていただきました。前川様には永年にわたり進和会を取りまとめていただきました。未熟者ではありますが精一杯務めさせていただきますので宜しくお願ひ致します。

さて、卒業及び修了を迎えた皆様は、今高専から巣立っていかれます。まさしく同窓生となられたこれからが、同窓会と本当のお付き合いが始まるものと思っています。皆さんには、約7,000人の先輩が県内はもとより全国で活躍しておられます。これからは、社会人として立場や環境そして責任も今までとは大きく変わり戸惑うことや悩むこともあるかもしれませんが、先輩達は皆良き相談相手になってくれると思います。身近にいる先輩や同期の仲間を大切にして下さい。

進和会も50年を過ぎ、同窓会として成熟期にさしかかったのではないかと思います。これからまだ幅広い年齢層となっていきますし、会員も増えています。そして、皆さんも来年には後輩を迎える立場となるのです。「福井高専のネットワーク」の一員として少しでも意識して下さい。

これからは日本の経済構造もどのように変化していくのかはわかりませんが、狭い国土と人口減少に向かう現状を考える時、日本は技術で世界と戦っていくしかないのではないかと考えます。福井高専卒業に誇りを持ち、頼れる高専の仲間がきっと近くにいることを忘れないで下さい。

「若きエンジニアの皆さん！活躍に期待します！」

【連絡先】

〒916-0064

福井県鯖江市下司町 福井高専進和会事務局
TEL 0778-62-1111 FAX 0778-62-2597

卒業生クラス紹介

機械工学科



一生勉強

機械工学科5年担任 加藤 寛 敬

卒業おめでとうございます。高専での5年間は皆さんにとって人生の拠り所になるはずです。自信を持って新しい道に旅立って下さい。

さて、私が企業に就職した時、新入社員は企業にとってほとんど戦力にならず莫大なコストのかかる投資である、とよく言われました。皆さんがこれまで学んだことは、あくまでもエンジニアとしてのほんの少しの土台に過ぎず、高専で学習した知識だけで一人前の仕事をするのはまだまだ難しいでしょう。企業は、新しい知識や技術を吸収していくだけの学ぶ力、そのポテンシャルに期待して採用しているのです。即戦力が必要と言われますが、すぐに役に立つもの（人材・知識）は、すぐに役に立たなくなります。即戦力も大事ですが、むしろ様々な変化の中で学び続ける力・成長し続ける力を備えている方が大切だと思います。

卒業しても、まだまだ学ぶことは沢山あります。勉強は一生続く。勉強に終わりはありません。これからが本当の勉強です。皆さんのご活躍を祈っています。ずっと応援しています。そして時々母校に元気な姿を見せに来て下さい。

これまでの5年間

機械工学科5年 林田 剛一

月日が経つの早く、入学したのがつい先日だったような感覚覚えます。これまでの5年間を振り返ってみると、私自身は中学時代からの目標であった「ロボコン」に参加し、それに関する様々な経験を沢山することができ、非常に濃い時間を過ごさせて頂きました。この5年間は私の一生の財産になると確信しています。

そんな5年間を共に過ごしたクラスを見てみると、2年次では本当に個性的で落ち着きの無いクラスでした。しかしこんなクラスも、インターンシップや体育祭などを通し、また、各先生方からの課題の荒波を越え、学年が上がるたびに落ち着きを見せるようになりました。今は皆が頼もしく、見た目も心も「大人」に近づいているのだと日々感じています。

この春より私達はそれぞれ新しい道に進みます。なにかしらの不安はありますが、この5年間を突き抜けた私達なら、きっと何処でも新たに成長できると思います。そして立派な「大人」になれるよう頑張ります。ありがとうございました。



電気電子工学科

卒業生クラス紹介



それぞれの道

電気電子工学科5年担任 丸 山 晃 生

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業を心よりお喜び申し上げます。3年生の年度途中での担任交代のときの皆さんの不安な様子を今でも覚えています。そんな皆さん、高専生として様々なことに取り組み、乗り越え、成長して卒業していくところを嬉しく感じています。この3年弱の担任を通して、初めて経験したことや苦慮の末に決断したこともあります。私自身が成長する機会を得ることができ、大変感謝しています。

皆さんは福井高専を巣立ち、それぞれが新たな道を歩み始めます。皆さんの人生におけるこの大きな転機を活かし、心機一転、新たな自分に挑戦してみましょう。これから進む道は時に遠回りであり、壁や岐路もあるでしょう。それはそれぞれの道を進んでいる証です。宮本武蔵は独行動の最後に「常に兵法の道をはなれず」という心構えを残しています。皆さんもそれに志す道を見つけ、それに邁進してください。

今後の皆さんの活躍を期待しています。

福井高専での5年間

電気電子工学科5年 佐 野 純 希

気が付けば5年生になっていた。入学した時、4年生や5年生の先輩たちはすごく大人に感じて、憧れの人たちだった。いつのまにか、憧れていた人たちと同じ年齢になり、自分も5年生という学年になっていた。

中学時代に高専を強く志望していたのは、今でも鮮明に覚えている。ロボコンに憧れて、福井高専の門を叩いた。5年間ロボコンだけをするつもりが、いろいろなことに興味が沸き、首を突っ込み、様々な人たちに迷惑をかけてしまった。先生方、先輩、後輩、友達、今でも感謝してもしきれない。ロボット作って、けん玉プレゼンして、青くなつて、お祭りして、就職活動をした。

まだ無事卒業できるか怪しいが、私は福井高専に入学し、卒業したことについて後悔はない。春から各自、別の道を歩み始める。就職する人、進学する人、みんな福井高専を卒業したということは同じで、思い出という記憶の中に永遠に残る。新しい場所や環境でも目標や夢を持って頑張っていきたい。みんな本当に世話をになりました。ありがとう！！

卒業生クラス紹介

電子情報工学科



「贈る言葉...自分に響く言葉を探してください」

電子情報工学科5年担任 斎藤 徹

この季節、担任を悩ますネタ「卒業生に贈る言葉」…うーむ、何がいいのだろう。じゃあとばかりに、Googleさんに聞いてみた。「夢をかなえる秘訣は4つのC。Curiosity-好奇心、Confidence-自信、Courage-勇気、そしてConstancy-継続」(ウォルト・ディズニー)。なんだか高専の体育館で聞いたようなパターンだな。

私は「勉強するから、何をしたいか分かる。勉強しないから、何をしたいか分からない」(北野武)にはっとさせられた。

でも、こういう言葉って自分を振り返って、抜けているピースにぴったりはあるかどうかで違うものです。私は次に進むモチベーションに悩んでいるのでしょうか。皆さんは、どんな言葉のピースがはまりましたか?見つからない?そりや、北野さんの言葉からすれば、自分自身への振り返りが足りないんですよ。

まずは、今の自分に「贈る言葉」を探してください。そして5年後にもう一度「贈る言葉」を探してください。その言葉の違いがあなたの成長だと思います。

「長くて、濃い5年」

電子情報工学科5年 佐々木 勇斗

入学してから5年という月日が流れて、私たちはこの福井高専を卒業します。5年という時間は入学したときはとても長いと思っていたが、実際過ごしてみてもとても長かったと実感しています。そう実感できるのは、同じクラスの仲間たちと濃い時間を過ごしてきたからだと思います。

この5E1というクラスはありきたりかもしれません、本当に個性豊かな人達が揃っていると思います。この振れ幅の大きさに助けられることもあれば、悩まされることも多くありました。しかし、根はみんないい人ばかりで本当にとてもいいクラスだったなと思っています。

私たちは高専という他の人達とは少し異なる選択をして、この福井高専に入学し、卒業します。ただ、「普通ではない選択」をしたということはそんなに重要な事だとは私は思いません。本当に重要な事は高専という選択をした結果、得られた経験、知識だと思います。この何にも変えられないモノを社会で活かしていくような人達になっていきましょう!

本当に今までありがとうございました!



物質工学科

卒業生クラス紹介



等価交換の価値は

物質工学科5年担任 後 反 克 典

5年生の皆さんご卒業おめでとうございます。皆さんにとって今年は新成人そして卒業や新生活を迎えるなど節目の年であるかと思います。4月からの準備は万全でしょうか。甘えた行動をしていると、学生気分が抜けないと言われます。例え面倒であっても、一つ一つのことをきちんとこなしてください。

さて、皆さんの中には何がしたいのかまだわからない人もいるかと思います。大学に行きながら、働きながら考えるのもよいでしょう。皆さんには経験がない代わりにもっているものがあります。それは「若さ」です。可能性と言いかえても良いでしょう。大人は歳を重ねて時間を失った分、知恵や経験をもっています。親は膨大な時間とお金と人生を注ぎ込むことで、子供を育てるのです。人は何かを失うことで、他の何かを得ます。これから的人生は取捨選択の連続ですが、等価交換の価値があるものかよく考えてください。大事なのは時間？お金？健康？etc… 皆さんはいま若さという可能性をもっています。あなたは何と引き換えにしますか？

故郷と夢

物質工学科5年 中 山 玲 司

夢はノーベル化学賞 — この一言が言えず、15歳の冬、福井高専の推薦入試で落ちた。明確に目標として掲げながら、その発言の重さ、夢の大きさに、自分では無理だろうという迷いが生じてしまい、恥ずかしくて言えなかった。

高専で過ごした5年間で夢も変わり、先日、成人式にて旧友と久しぶりに話す機会があった。彼は、STAP細胞の研究で物議を醸した小保方さんと、昨年ノーベル生理学・医学賞を受賞した大隅教授との研究内容の違いすらも分からぬよう、理系オーナーの人だった。しかし、そんな彼だからこそ、私の夢の無謀さを分かりもせず、素直に期待してくれた。

私は、20年間過ごしてきた福井を出て愛知へ行く。これから周りには専門に精通した人ばかりが集まり、夢を語っても期待してくれる人はほとんどいないであろう。しかし、福井で出会った人の中には、私の夢を信じ、期待し続けてくれている人が沢山いる。私にとって故郷とは、自分ですら信じきれない大きな夢に希望を持ち続けさせてくれる、かけがえのないものである。

卒業生クラス紹介

環境都市工学科



人間青山

環境都市工学科5年担任 奥 村 充 司

保護者の皆様におかれましては、御子息、御息女が無事本校を卒業されること心よりお喜び申し上げます。日々彼らと接し人生における多感な時期を共有できることは担任として感謝の気持ちに堪えません。毎年担任が替わったり、留学したのに替わらなかったり、父親と担任が同じだったりと印象に残るクラスでした。諸君が過ごした青武台は文字通り鯖江と武生に跨る土地。だが、なぜ「台」なのか？確かにキャンパスは周囲よりも高く土を盛った平らな土地ですが、五十年間、日野川と吉野瀬川に挟まれた低湿地には変わりはありませんでした。しかし、ここへ一本補助線を描くことで謎が解けました。すなわち、福井県の治水事業、吉野瀬川放水路、いわば「青武丸」の完成です。今年いよいよ本格運用が始まります。周辺整備も含めて多くの本校卒の先輩諸氏が関わった事業です。諸君も「ものの基礎となるもの」はしっかりと学びました。国内外でのご活躍を祈念します。

これまでの五年とそれから

環境都市工学科5年 竜 田 晃 樹

入学してすぐの頃、私たちは新入生歓迎会で、将来の夢を先生方と先輩方に向かって宣言する機会があり「みんなが安心して暮らせるまちをつくります」と私が宣言してから、もう五年が経ちました。卒業してしまう今、私たちはその時の夢を叶える準備ができたのでしょうか。五年間、本当に色々なことがありました。高専祭でコロッケを爆発させて、球技大会のフットサルで三連覇して、実験でコンクリートをぶっ壊して、研修旅行でフェリーに乗って、遠足でそばを打って。また、留年するって大騒ぎしたり、課題の締め切りに追われたり。みんなで海にも行ったり、BBQもしました。なにもかもが、良い思い出です。私は大学へ編入して、「みんなが安心して暮らせるまち」をつくるための勉強をします。まだまだ夢の途中です。このクラスで四年間を過ごすことができて幸せでした。卒業してもこの仲の良い関係を途切れさせず、いつか夢の続きを存分に語り合いましょう。

修了生クラス紹介

生産システム工学専攻



専攻科修了式に添えて

生産システム工学専攻主任 西 仁 司

専攻科修了生の皆さん、おめでとうございます。本科と合わせると7年間本校で学ばれたみなさんは、今後の新しい進路に対して、夢や希望、そして不安も抱きながら修了式を迎えたのではないでしょうか。

昨年10月の高専祭に合わせて、専攻科ホームカミングデーを実施しました。今年度は14名の修了生の方に参加いただき、ご欠席の方からはアンケートでご意見をいただきました。その結果、多くの修了生の方が、企業や大学院で研究・開発に携わっていらっしゃるということを改めて認識しました。そこでは、専攻科での特別研究や他分野の学生とのPBL型授業が、現在のキャリア形成の手助けとなっているという意見も多くありました。

修了生の皆さん、ぜひ自信を持って今後の進路で活躍してください。ただし、周囲の人からの意見や、研究・開発の際の実験結果には謙虚でいてください。そして最後に大事なお願いです。ホームカミングデーには、ぜひ参加してください。

青空に 飛びゆくシャボンは 虹の色

「高専生活7年を振り返って」

生産システム工学専攻2年 高 野 直 也

入学当初は知り合いもほとんどなく、まだあまり高専の中身を知らない、不安と緊張ばかりの毎日でした。しかし、同じような考えを持った人たちの集まりだったのですぐに打ち解けることができ、良い先生にも恵まれたことから、とても楽しい学校生活を送ることができました。

専攻科に進学してからは、グローバルに活躍する力をつけるという指導方針から、今まであまり関わりのなかった他学科の人達と協力して作業をする機会が増えました。このことによって、新しい友人が多くでき、彼らのおかげで今までと違うものの見方ができるようになり世界が広くなったように感じます。

福井高専で過ごした7年間はとても充実した期間でした。ここで得た知識や過ごした思い出を人生の支えにして、これから的生活を頑張ろうと思います。

最後に、ここまでこれたのも熱心に指導をしていただいた教員の方々、お世話になった職員の方々のおかげです。本当に有難うございました。

修了生クラス紹介

環境システム工学専攻



未来の空へ

環境システム工学専攻主任 吉田 雅穂

専攻科修了、おめでとうございます。

“いきものがかり”の『YELL』は知っていますよね。君たちが中学校を卒業したのが2010年3月、その前年9月にリリースされた曲です。もしかしたら卒業式で歌ったかもしれません。「サヨナラは悲しい言葉じゃない それぞれの夢へと僕らを繋ぐ YELL ともに 過ごした日々を胸に抱いて 飛び立つよ 独りで 未来(つぎ)の 空へ」

坂井市丸岡町の一筆啓上賞は1993年に始まり、1994年に出版された『日本一短い「母」への手紙』はベストセラーとなり、翌年には十朱幸代主演で映画化されました。君たちが生まれた1994年度のテーマは「家族」。入賞作品のひとつにこんな手紙がありました。「誕生したわが子へ…… やあ、出てきたね。どうだいこの世界は。しばらくは一緒に生きてゆくんだよ。」

高専で学んだ数式はいつか忘れても、人生の節目節目の思い出はきっと忘れることはできません。この専攻科修了の節目に、君たちが友人や家族と過ごした2年間と5年間の良き思い出が末永く心に残ることを願っています。

「あっという間の高専生活」

環境システム工学専攻2年 橋本涼

私が福井高専に入学して早7年、その7年間が始まった入学式のあの日、私は不安ばかりでした。授業についていくのか、友達ができるのか、そんな心配事ばかりしながら始まった高専生活でした。しかし7年経ってみると、そんな心配も忘れるくらい充実した学校生活と多くの友達ができ、あの頃の自分に「大丈夫、心配ないよ」とこと細やかにプレゼントできるくらいには成長でき、今は笑ってこの福井高専から巣立っていくことができるかなと思います。さて、こうして高専7年間を経て、多くのことを学んで修了というゴールにたどり着いた自分が、これからは、社会人として再びスタートラインに立ちます。ことわざに“勝って兜の緒を締めよ”という言葉がありますが、この言葉のように卒業できたことに安心せず、今後も、しっかり社会人として頑張っていかないといけないなと思います。最後になりますが、福井高専でお世話になった先生方、同級生の皆さん、本当に7年間ありがとうございました。

学生の将来と進路

平成28年度 進路内定状況報告

近年の本科生の進路は、就職が約6割、進学は約4割で推移しており、平成28年度の就職希望者の割合は本科生で60%、専攻科生は68%であった。

最近の就職活動の状況を振り返ると、平成26年度までは企業の広報活動の解禁が12月、採用活動の解禁が4月であったが、平成27年度に広報活動が3月、採用活動が8月の解禁へと後ろ倒しされ、平成28年度は採用活動の解禁が6月に変更された。しかし、実際の就職活動への影響は限定的で、平成26年度と同様の早い時期からの対策が必要であった。なお、平成29年度は広報活動が3月、採用活動が6月の解禁である。

平成28年度の本校への求人数は3,682であり好調を維持している。各企業は積極的に海外に進出しており、グローバルな視点を持ち、実行力を備えた人材を必要としている。そこで、実践的な技術者教育を受け、入社後の大きな伸びしろが期待できる高

キャリア支援委員会委員長 芳賀正和

専生の需要が高まっているのである。

次に進学状況であるが、平成28年度の本科の進学希望者は、専攻科進学が30名、大学編入学が40名である。また、専攻科から大学院への進学希望者は8名である。本校の専攻科は、福井大学、金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学、早稲田大学の各大学院との間で推薦入学に関する協定を締結しているので大学院進学の参考にして欲しい。

本校では、例年、大学・大学院合同説明会およびキャリア教育セミナーを開催している。また、研修旅行やインターンシップなどの機会を利用して、進路の選択の幅を広げていっていただきたい。

最後に、学生の進路指導には、関係教職員および保護者の皆様の適切なご支援が不可欠です。様々な形でご尽力いただいている皆様に、厚く御礼申し上げます。

平成28年度 進路内定状況

平成29年2月25日現在

学科	区分	卒業・修了 予定者数	進学 希望者数	内 定 者 数		未定 者数	就 職 希望者数	内 定 者 数		未定 者数	その他
				大学・大学院	専攻科			県 内	県 外		
本 科	機 械 工 学 科	34	14	8	6	0	20	8	12	0	0
	電 気 電 子 工 学 科	33 (1)	15	10	5	0	18 (1)	5	13 (1)	0	0
	電 子 情 報 工 学 科	36 (8)	11 (1)	6 (1)	5	0	25 (7)	7 (4)	18 (3)	0	0
	物 質 工 学 科	40 (16)	18 (4)	12 (2)	6 (2)	0	22 (12)	8 (3)	14 (9)	0	0
	環 境 都 市 工 学 科	33 (14)	12 (3)	4 (1)	8 (2)	0	21 (11)	6 (4)	15 (7)	0	0
	小 計	176 (39)	70 (8)	40 (4)	30 (4)	0	106 (31)	34 (11)	72 (20)	0	0
専 攻 科	生産システム工学専攻	12	5	5		0	7	3	4	0	0
	環境システム工学専攻	13 (4)	3	3		0	9 (4)	8 (4)	1	0	1
	小 計	25 (4)	8	8		0	16 (4)	11 (4)	5	0	1
	合 計	201 (43)	78 (8)	48 (4)	30 (4)	0	122 (35)	45 (15)	77 (20)	0	1

※表中の()は女子数で内数



学生の将来と進路

平成28年度 大学編入学試験・高専専攻科入学試験合格状況

平成29年2月25日現在

大学等	学部等	学科		機械工学科		電気電子工学科		電子情報工学科		物質工学科		環境都市工学科		合計	
		推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力
東北大学	工学部							1							1
宇都宮大学	工学部				1										1
信州大学	工学部										1		1		
茨城大学	工学部				1										1
長岡技術科学大学	工学部		1	1	2								1	3	
新潟大学	工学部			1										1	
千葉大学	工学部										1(1)		1(1)		
日本大学	理工学部											1		1	
金沢大学	理工学域	1		1				1					3		
福井大学	工学部		2		3		4(1)	2	1(1)				2	10(2)	
岐阜大学	工学部	1	1										1	1	
名古屋大学	工学部								1					1	
名古屋工業大学	工学部								1					1	
豊橋技術科学大学	工学部	1	2	1				2	3	2(1)	1		6	6(1)	
滋賀県立大学	環境科学部											1		1	
大阪府立大学	工学域物質化学系学類									1				1	
神戸大学	理学部									2				2	
広島大学	工学部				1									1	
岡山大学	理学部									1				1	
舞鶴高専専攻科	総合システム工学専攻				1									1	
福井高専専攻科	生産システム工学専攻	6		2	2	5							13	2	
	環境システム工学専攻							6(2)	2	6(1)	2(1)	12(3)	4(1)		
合計		9	6	6	11	5	7(1)	12(2)	11(2)	9(2)	4(1)	41(4)	39(4)		

※表における合格者数は延べ人数を表す。()は女子で内数。

平成28年度 大学院入学試験合格状況

平成29年2月25日現在

専攻	生産システム工学専攻		環境システム工学専攻		合計	
	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力
金沢大学 大学院 自然科学研究科	1		1		2	
北陸先端科学技術大学院大学	1	1	1		2	1
福井大学 大学院 工学研究科	1		1		2	
奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科	1				1	
合計	4	1	3		7	1

※表における合格者数は延べ人数を表す。()は女子で内数。

活躍する仲間

第13回全国デザインコンペティションに参加して

デザコンに参加して

5B 加藤 恵資

2016年12月17日、18日に全国高等専門学校デザインコンペティション2016 in Kochiがあり、私たちは構造デザイン部門における福井高専の代表として参加しました。内容は支間長900mmで、最大荷重60kgfに耐えられる軽量なメタルブリッジの作製でした。

デザインコンペティションに向けての本格的な活動は夏休みからでした。私たちは毎日学校に集まり、メタルブリッジの材料となる銅とハンダとにらめっこを繰り返しながら、1つ目のメタルブリッジを完成させました。夏休みの終わりには一度福井高専内での予選があり、私たち環境都市工学科5年生の敦賀、勝見、加藤、住本と3年生の塙村、森の5人で結成されたチームアイアンマンがデザコンに参加することになりました。

今大会のデザインコンペティションは、昨年のデザインコンペティションの傾向より、アーチ状のブリッジが多いのではないかと推測し、敢えて型に嵌らないラーメン構造で挑もうと思いました。しかし、ラーメン構造は無謀であったためか、出発日までに最大荷重に耐えることはできませんでした。

そして本番を迎え、載荷試験を行いました。順当に載荷荷重を増やしていく最大荷重を載荷した後も、そこに私たちの作ったブリッジは立ち構えていました。本番という場で、初めて最大荷重に耐えることが出来ました。結果は31 / 60位でしたが、ラーメン構造のブリッジだけで見れば、私たちのチームが一番いい成績でした。

今回の活動を通して、本当に多くの苦難がありましたが、終わってみれば苦難以上に大きな経験を得、人として成長できたと思います。



第10回東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテストに参加して

Don't give up; you can surely do it!!

3B 垣村ひな

昨年11月12日、富山高専本郷キャンパスにて第10回東海北陸地区英語スピーチコンテストが開催され、福井からは3E1の木下さんとともに16名の参加者で競いました。

私は今回のスピーチコンテストで、どれだけ練習するかによって結果が全く変わってくるということを知りました。

他高専の出場者はみんな、発音はもちろんのこと、声量や表情、自然なジェスチャーなどから、たくさんの練習量や自分のスピーチをみんなに聞いてほしいという気持ちがたくさん伝わってきました。特にいいなと思ったスピーチの人は、覚えてきた文章を話しているようには見えなくて、とても自然に且つ笑いを加えていて、人を惹きつけるのが上手いなと勉強になりました。

でも私のスピーチは練習通りに上手くいかなくて後悔していることがたくさんあります。最初壇上に上がった時に、緊張して頭が真っ白になって、覚えていたことを全部忘れてしまいました。先生と放課後に何度も何度も練習して完璧だったはずなのに、本番になるとみんなが私に注目していて、慣れない環境で上手く力を発揮することができませんでした。これも、文章自体にインパクトがなかったのもあるし、自分を上手く表現するのにもっとたくさんの練習が必要だったのだと思います。

今回のスピーチコンテストでは達成感よりも後悔の方が大きかったけれど、英語を勉強していく良かったなと思いましたし、私には英語を勉強する以外に好きなことが無いので続けていきたいなと思います。

そして、コンテストを終えた私に、友達がこんな言葉をくれました。

"Fall down seven times ; get up eight."

挫折することはとてもつらい事だと思うけれど、つまずいてからしか見えない景色もあると思います。私は今回の経験でそれを学びました。Don't give up, you can surely do it!!



活躍する仲間

第10回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト受賞報告

Light Tomorrow with Today!

4C 木下 明日香

私たち福井高専チームは、このたび1月29日に東京で行われた第10回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト(プレゼン)に出場し、エネルギー問題についてのプレゼンで優勝を勝ち取り、文部科学大臣賞を頂くことができました。

今大会での優勝は、たくさんの方々の助けがあって実現できたものです。三田君、吉田先生がそれアメリカで知り合ったネイティブの先生や村先生には予選原稿やビデオをチェックしてもらったり、藤田先生、原口先生には実際に練習を見てもらったりとさまざまな方からアドバイスを頂きました。イングリッシュカフェに来た学生にもオーディエンスになってもらい、本番を想定した練習ができました。特筆すべきは昨年の大会でも指導してくださっていたクーパー先生です。今年は富山高専に戻られましたが、ある時はスカイプ経由で、さらに直接福井にも出向かれ、さまざまなアドバイスをいただきました。先生の視点は的確で、プレゼンの質を向上させる一番の助けとなりました。

昨年2位という結果を残しているだけに周りからの期待もあり、少々プレッシャーを感じることもありました。しかし、チームメイトの二人と吉田先生と優勝に向かって同じ気持ちで頑張ってこられたので、緊張はありましたが本番では自信をもって発表することができました。休み返上での長時間の猛練習、本番前日までスライドの微調整、セリフの変更など苦労はしましたが、会場で見ていた皆さんから高評価も頂け、今までにない達成感を感じることができました。最高のメンバーで最高のプレゼンができる本当に良かったです。応援ありがとうございました。

今回の優勝は、英語プレゼンの存在を福井高専の皆さんに知つてもらう良い機会となったと思います。これからは福井高専が全国大会の常連校となるよう、来年以降もチームを作つてまずは予選に挑戦してほしいです。



2016年少林寺拳法全国大会 in おおいた

少林寺拳法全国大会を経て

4E 内海 安久璃

私は10月29日、30日に2016年少林寺拳法全国大会in大分へ参加してきました。

まず、全国大会で感じたのは圧倒的な実力の差でした。忙しい中で精一杯尽くしているつもりでしたが、全国大会に来ている人たちはさらに時間をかけて練習をしており、その実力の差を見せつけられました。私と同じ年齢であるということは、きっと忙しさも同等のものだと思います。にもかかわらず大きく差が出てしまい、自分の努力の足りなさを痛感しました。全国大会の選手の少林寺拳法に対するやる気と凄まじい努力に圧倒されると同時に、いい目標になりました。

次に、忙しい中での練習をこなせたことは、とてもいい経験となりました。なぜなら今回の練習で、どれだけ忙しくてもわずかな時間を見つけて練習することはできる、ということを学ぶことができたからです。これは少林寺拳法の練習だけではなく、勉強など、部活動以外でも同じことだと思います。少しずつでもコツコツと積み上げていけば、必ず成果はついてきます。今回の大会で結果を残せなかつたのは、この積み上げが足りなかつたからだと考えます。今になって思い返してみると、もっと練習できる時間はあったと思います。これからはこの反省を生かして、学校生活も少林寺拳法もそれら以外のどこでも活躍できるように邁進していきたいです。

最後に、全国大会への出場は全国のレベルを知るいい経験となり、高みを目指すいい目標となりました。さらに時間を有効活用する術を知りました。これだけでも全国大会へ行ったことは、決して無駄ではなかつたと感じます。この経験を、これから私の少林寺拳法にも人生にも役立たせていこうと思います。



活躍する仲間

第35回近畿高等学校総合文化祭兵庫大会将棋部門

近畿で学んだこと

F1 澤崎 宏大

僕は今回の近畿総合にB級個人の部で参加しました。しかしながら全国からたくさん的人が集まって来るだけあって、強敵揃いの大会となっていました。そんなわけで僕は予選リーグで敗退してしまい実力の無さを実感し、修行をつんでいこうと思いました。僕の先輩方は団体戦のA級の部でそれぞれ出場されました。やはりとても強いだけあって次々に強豪校を撃破してきました。団体戦に出場された先輩方はとてもお強く、先輩方は特に奥田先輩という方は僕はまだ二枚落ちですら勝ったことのないようなまさに雲の上の存在のような方だったので流石だなあと思いました。二枚落ちで勝てないというのは将棋の世界の中ではとんでもない棋力の差ですからやはりまだ僕も実力が足りないと常に思っています。そんな高専の将棋部も準決勝での進学校として有名な灘高校を前に惜しくも敗退となり、ベスト4という結果だったのには本当に驚き、「あの奥田先輩ですら勝てない相手がいるなんて・・・」という気持ちになり本当に上には上がいることを痛感させられました。しかもその灘高校ですら決勝戦は負けているので、本当に驚きの連続でした。高専の将棋部に入つてもう大分日にちが経つのですが、日に日に将棋というものの奥深さを感じています。将棋は運無しの実力だけの勝負ですから強さだけがものを言います。勿論、Oとは言いきれないかもしませんが少なくともカードゲームの様な引き運などの要素はありません。将棋の対局中は盤だけを真剣に見つめて対局します。特に終盤の激しい競り合いとなると周りの音さえ何も聞こえなくなるような状況になります。近畿総合もそうでした。僕はこれからも何らかの大会に出ることになると思いますが、そのときもただ盤だけを真剣に見つめ、またあの周りの音が何も聞こえなくなるような状況になってみたいです。そしてそれまでに修行をつんで今まで勝てなかった強敵にも勝てる実力をつけていきたいです。



全国高等専門学校ロボットコンテスト全国大会に参加して

全国大会で学んだこと

4M 小濱 真宏

私たちは全国高等専門学校ロボットコンテスト東海北陸地区大会で勝ち抜き、11月20日に国技館で行われた全国大会に出場しました。

全国大会では今まで調子のよかつたロボットが全く動かなくなったり、部品の破損等のトラブルなどがありました。それらのトラブルは何とか本番までには解決しましたが、残念ながら実力を存分に発揮できず、結果は二回戦敗退となってしまいました。しかし全国大会に参加することで、強豪校のロボットや部活のシステムなどを見聞きすることができ、非常に良い体験になりました。

この大会に出場して私が一番感じたことは、目標は常に高く持つ必要がある、ということです。私は4年間ロボコンに参加してきましたが、目標は全国大会に出場することでした。その目標を今年度は果たすことができましたが、果たしてしまった後、つまり全国大会に向けて改良をしていくとき、地区大会に参加するまでの勢いがなくなってしまったと感じました。これは目標を果たしてしまった達成感や開放感からそうなってしまったのだろうと思われます。最初から全国優勝などの目標を立てていれば、地区大会は通過地点でそれからも同じ気持ちで活動が続けられたのではないかと思います。結果的にロボットの改良が遅れてしまい、練習時間を十分にとることができないまま、全国大会に臨むことになってしまいました。このことは最大の反省点であり、最もいい勉強になった点だと思います。

福井高専ロボット部は現在2年連続で全国大会に出場しており、着々と実力が身についてきていると感じています。後輩には今までよりも目標を高く持ち、これまでの経験を活かして、さらに活躍してくれる期待しています。



活躍する仲間

第25回全国高等学校文化連盟将棋新人大会に参加して

新人大会のリベンジ

2Ei 谷川友基

全国高校将棋新人大会が2月にあった。私は昨年もこの大会に出場させていただき、その時は手も足も出なかった。そのため、今年こそは結果を残したいと思っていた。

まず予選があり、スイス式で4試合中3勝をしなければならない。昨年はここで3連敗し、最後に一勝を収めたものの満足の行く結果ではなかった。私はこのときに相手が良く使っていた作戦を徹底的に対策し、今大会に望んだ。その結果、今年は初戦で勝ちを収めることができた。しかし、二戦目は負けてしまい、後がなくなった。三戦目、スイス式という性質上、相手も同じ境遇である。この戦いを制した私は、決勝リーグ進出へ王手をかけた。だが4戦目、勝ちへの思いが空回りしてしまい、結果惨敗してしまった。

今年も予選落ちという結果は変わらなかった。だが、その内容は昨年よりはるかに進歩しており、自分で大きな後悔はない。今回は最後の新人大会であり、またほかの大会に出場する機会もだんだん減ってきてるので、安定して結果を残せるようになりたい。この大会はそれに向けての大きな一步だったと思う。

最後に、今大会も私はたくさんの方々の支えにより大会に臨むことができた。その全員に感謝の気持ちを伝えたい。

平成28年度 優秀学生賞



独立行政法人 国立高等専門学校機構
理事長表彰



専攻科環境システム工学専攻2年
内藤篤哉



公益社団法人 計測自動制御学会北陸支部
優秀学生賞



機械工学科5年
林田剛一



電気情報通信学会北陸支部
優秀学生賞



電気情報工学科5年
小川久介



電子情報通信学会北陸支部
学生優秀論文発表賞



日本機械学会富山賞
機械工学科5年
辺見拓雄



電気学会北陸支部
優秀学生賞



電気電子工学科5年
三反崎港人



一般社団法人 映像情報メディア学会北陸支部
優秀学生賞



電気電子工学科5年
三田村竜希



情報処理学会北陸支部
優秀学生賞

電子情報工学科5年
牛若光太



公益社団法人 日本化学会近畿支部
優秀学生賞

物質工学科5年
森田裕貴



日本分析学会中部支部
優秀学生賞

物質工学科5年
日置七瀬

活躍する仲間

平成28年度 キャンパスプロジェクト概要一覧

学年	学 科	代表学生	テ ー マ	連絡教員
5	機械工学科	山崎 港大	コンテスト製作物の展示台作製	亀山建太郎(機械工学科)
5	電子情報工学科	前田 勝紀	教員向け居場所確認用のLEDディスプレイの製作	小松 貴大(電子情報工学科)
4	機械工学科	志尾 諒	段差をなくせ!昇降機!!	村中 貴幸(機械工学科)
4	機械工学科	中原 圭悟	五味先生、畠はじめるってよ。	五味 伸之(機械工学科)
2	電気電子工学科	谷口 真一	校歌をより身近に	川上 由紀(電子情報工学科)
3	環境都市工学科	長谷川陽紀	木製トンボとトンボ置き場の整備	辻野 和彦(環境都市工学科)

平成28年度福井高専キャンパスプロジェクト概要報告

平成28年度キャンパスプロジェクト研究概要

機械工学科5年 山崎 港大

我が福井高専では、ロボコンや小水力など、様々なコンテストに出場している。そこで作られる制作物は大型のものであり、コンテスト終了後は動かされずに放置され、あるいはひっそりと展示されている。そのため、コンテストに対する学生の認知度が低い。よって、本プロジェクトでは、大型の制作物を高専祭等で高専生、一般人に見せることが出来る移動可能な多機能展示台の設計、製作を行った。

製作した展示台は展示面積が約2メートル四方あり、展示台許容重量が約150キログラムまで載せることが可能なので、大型の製作物でも展示することが可能である。展示台の四隅には、柱があり、展示物の周りにチェーンを設置することが可能である。柱は取り外しが可能で移動や片付け時に邪魔になることはない。取り外した柱は展示台備え付けの引出しに収納可能である。また、移動のために展示台は中央で二つに分割することが可能で、計12個のキャスターも付いている。

製作した展示台は今後、コンテストや製作物の認知度向上に繋げていってほしい。

キャンパスプロジェクトに参加して

電子情報工学科5年 前田 勝紀

昨年も参加させていただいたのですが、今年度のキャンパスプロジェクトでは企画の段階からの参加

したのでより多くの経験をすることが出来ました。製作は楽しみながら進められましたが、グループで製作を行う機会はあまり多くないので苦労すること多かったです。その中でも、5年生を中心に組んで作業を進めようとしていたので個々のスケジュールが忙しくなかなか全体として製作を上手く進められない時期があったことが一番苦い経験です。代表というポジションに立ち全体の取りまとめ等をしなければならなかったこともあります。これは大きな失敗だったと思います。その際に、後輩の力を借りることで何とか状況を開拓できたので、学年を超えた交流の大切さを実感しました。製作物は形になったものの、本来の計画よりも進行はかなり遅れてしまったの決して成功ではなかったと思っています。今年経験したことが、キャンパスプロジェクトに来年度以降から参加する後輩の糧になれるように伝えていきたいと思います。

キャンパスプロジェクトに参加して

機械工学科4年 関 彩奈

今年度もキャンパスプロジェクトが実施される事は知っていましたが、正直、最初はどこか他人事という印象でした。しかし、車椅子の私が段差のある実験室に入れないので問題を解決する為、クラスメイトたちがチームを結成してくれ、昇降機の製作が決まりました。私もチームに名を連ねることになりましたが、製作も手伝えず、役立たずではないかと不安を抱えていました。

活躍する仲間

実験室で授業が行われる11月が製作の期限でした。度重なる仕様の変更、発注した部品の到着の遅れ等、トラブルもありましたが、チームメイトは私の使用感などを真摯に聞いて、改善を繰り返し、無事、期限までに完成させることができました。本当にありがとうございました。

今、他人事に捉えている人も、是非、来年度は友達を誘って、参加してみてください。感動を味わえます。

最後になりましたが、ご指導頂いた先生方、製作指導してくださった技術職員の方々をはじめ、関係教職員の方々に心から感謝申し上げます。

キャンパスプロジェクトと私

機械工学科4年 中原圭悟

私はキャンパスプロジェクトにおいて、畑をつくるという工業系には似合わないプロジェクトを立ち上げました。しかしこのプロジェクトを通じて、普段できないような経験をすることができ、何より他学科・他学年の人たちと交流を深めることができました。

そもそもこのプロジェクトをしようと考えたきっかけが、寮内のイベントで行われる焼き芋でした。このイベントでは毎回大勢の人が食べに集まり、その場でいろいろな話が飛び交うとても賑やかな場所になっていました。そういう場を増やすことができればと思い、今回のプロジェクトを立ち上げました。

今後はこのプロジェクトを後輩に託し、学科や学年に関係なく交流できる場所として何年も続けていければと思います。

トンボが足りない…それなら作ろう!

電気電子工学科2年 出藏祐志

硬式野球部は、練習環境の改善を目的としてキャンパスプロジェクトに毎年応募しています。これまでに、先輩方はグラウンド整備用のトンボ、散水装置、ティー打撃用ネットを作られました。3年前に作ったトンボが傷んできたこと、余った木材で修理しながら使ってきましたが、その材料も無くなうこと、部員が増えたこと等から、トンボが不足していました。トンボが足りない…それなら作ろう!ということで、今年のプロジェクトではもう一度トンボを作ることにしました。また、トンボ置き場を単管パイプで作ることにしました。

私達は、環境都市工学科の辻野先生の協力の下、電ノコによる材料の切断、ボール盤による穴あけ、

サンダーによるみがき、電動ドライバによる固定などを経験することができました。電気電子工学科の私からすると見たことも触れたこともない工具を使用することができ、個人的にも満足のいくトンボやトンボ置き場が完成しました。

今年もキャンパスプロジェクトに採択頂きましてありがとうございました。自分達が作ったトンボをこれからも大切に使用し、さらに練習環境を良くして大会で結果を残せるよう頑張ります。

音鍵研究会の活動

電子情報工学科2年 青柳拓斗

私たち音鍵研究会はキャンパスプロジェクトでの活動として、校歌をより多くの学生にとって身近なものにするために、校歌のアレンジ楽曲を制作しました。高専祭では、「Launch Pad」という演奏機材を用いて、制作した校歌アレンジをライブ形式で発表しました。また、展示エリアでは、本会の活動を周知させるのを目的とし、校歌アレンジを制作する過程を紹介しました。

校歌のアレンジは海外で流行しているEDMというジャンルをモチーフとし、日本人にも受け入れやすい曲に仕上げました。今回は校歌の旋律を曲の一部に用いましたが、校歌の曲全体を再編曲したり歌唱パートを入れたりすると、学生により親しみやすい形にすることでき、より良い活動になると考えています。

今回のキャンパスプロジェクトでは、奨励金のおかげで普段使えないような機材やソフトが使えるようになり、活動の幅が広がったように感じます。また、普段は自分たちの活動や曲に意見をもらえることが少ないので、先生方からのご指摘やご意見はとても貴重なものでした。

2月で本会が発足して一年半になり、部員も作曲法の基礎が身についてきたので、今年は楽曲制作の経験を積み、制作技能を高め、楽曲をより充実させていきたいです。また、我が校の校歌を愛されるものにしていくような活動も継続していきたいです。

研修旅行

研修旅行について

研修旅行について

3M 圓道瑛大

4日間の研修旅行、そして三日間の自主研修旅行を通して、私はたくさんの経験をすることができました。実際に企業を訪れ、そこで働いている人たち、そこで生み出される工夫や、製造ラインというものを見て、自分たちが学んでいることがどのように使われているのかを自分の目で確認することができ、自分たちが学んでいることがどのようなものなのかを実感することができました。

更に、それだけではなく、クラスの友人たちと様々な場所を訪れ、そこでいろいろな体験をして、仲間との交流を深めることもできました。本来、研修旅行の目的は先に述べたように、実際に企業を訪れ、そこから何かを学ぶというものなのかもしれません、私には仲間とともに様々な経験をするということこそ、今回の修学旅行で行うべきことだったのでないかと思います。友人と遊園地でアトラクションに乗って遊んだり、珍しい土地に訪れ、ともに感動したり、はたまた、ハプニングに遭遇したりと、私は研修旅行で様々な体験をしました。市立札幌病院も今ではいい思い出です。

自分にとって最高の思い出を作る、友人たちとの旅行に行くことができてとても幸せでした。



研修旅行について

3E チョムラン

私たち3年電気電子工学科は4日間で、関東地方へ見学旅行に行きました。

1日目は皆がスーツを着用して、バスに乗って、滋賀県にある兵神装備株式会社に向かいました。兵神装備は、様々な液体の移送・注入・塗布に携わる、産業用の企業です。専門とあまり関係なかったですが、液体の移送について、どういうふうに応用されるか社員から色々紹介いただきました。様々な優れている技術のことを見学しました。2日目は、富士急ハイランドに行きました。そこで、友達と世界最高クラスのFUJIYAMAジェットコースターにのりました。色々なことに挑戦し、友達とより仲良くなり、人生経験も豊富になりました。また、夜はフェリーの中で友達や先生と夕食をし、普段と違う新鮮な生活感を味わえ、本当にいい思い出になりました。3日目は、日本のトップ企業、ANAに見学に行き、4日目は、上野公園へ行きました。

4日間の見学では、私たちは疲れましたが、時間を守り、しおりの通りに行動できました。見学旅行を通じて、専門だけでなく、様々な普段に経験をしない貴重な経験ができました。これから、これらの経験を活用し、残りの高専生活を送りたいとおもいます。



研修旅行

研修旅行について

学ぶべきもの

3Ei 増田 章一

私は、この工場見学旅行において自身が学ぶべきことはなにか、ということを念頭においていました。見学した場所はアイテック阪急阪神株式会社と株式会社ダイヘンです。アイテックは主に様々な産業のシステムを開発する会社です。私たちが普段学んでいる専門的な知識に加えて、あらゆる産業についての知識がないと、依頼する側との理解の一致ができなくなります。そのためにあらかじめその産業について調べておくことが重要だと学びました。ダイヘンは電力機器・半導体関連機器事業を行っています。それらの機器を製造するだけでなく、その機器を利用したシステムの開発、サポートも行っています。製品を作る過程で、その製品がどのように使うことができ、どのように組み込むことができるか考えた上で作成しないと完成したとしても需要があるかどうか分かりません。したがって、プランをよく練って考えることが重要だと学びました。

結論として、私たちが学ぶべきものとは、コミュニケーション能力と、想像力だと思います。相手と対話することによってお互いのイメージを確立させ、そのイメージを膨らませ他のものに応用する。それが大事だとこの見学旅行を通じて感じました。



3Cらしさ

3C 竹澤 亮真

僕たちは、関東に位置する、味の素・千葉大学植物工場・つくばサイエンスツアーセンターを見学しました。クラスのみんなが普段は着慣れないスーツを身につけ、いつもよりも大人っぽく見える喜びからか、旅行1日目から自然とたくさんの笑顔が見られたように思います。各見学場所では、普段授業で習っている分野の知識よりもさらに深みに入った専門的な講義を聞かせていただき、まだまだ自分たちは勉強不足だと感じると同時に、これから専攻する分野選択や自分たちの将来の職について改めて考えるきっかけになりました。

クラスの親交を深めるため、2日目の旅館ではカラオケ大会が開催され、担任の高山先生や副担任の原口先生を筆頭に、みんなの熱唱で大変盛り上がりました。3Cらしい、笑いの絶えない合いの手に、思わず旅館の仲居さん達も笑っていたことがとても印象的でした。

研修旅行を経て、僕たちは、協調性や自分で考えて行動する力を磨くことができ、また一つ成長した高専生になれたのではないかでしょうか。このメンバーで、同じクラスの仲間として過ごせるのはあと2年。共に過ごせる時間を大切にして、残りの高専生活を楽しみたいです。



研修旅行・校外研修

研修旅行について

見学旅行の思い出

3B 松田 健吾

研修旅行では、様々な施設や大学などを訪問し、現場の作業や建築設備を見学しました。一日目は、京都府宇治市にある天ヶ瀬ダムの再開発事業を見学しました。アーチ式コンクリートダムは高さが73mあり、ダムの上で水力発電や治水に関する説明を受けました。また、この現場には近畿地方整備局の福井高専の卒業生も駆けつけて頂き、国土交通省の仕事、再開発事業の内容を教えて頂くことができました。また、午後は海遊館のバックヤードに入り、設備を見学しました。表側の華やかな雰囲気だけでなく、魚の餌を管理している冷凍庫やバックヤードの数多くの水槽を見ることができました。その後、大阪南港から大分県新門司港行きのフェリーに乗船しフェリー内で宿泊しました。瀬戸内海航行中、ライトアップされた明石海峡大橋や瀬戸大橋などの本州四国連絡橋をデッキから見上げることができました。

最終日は、九州大学アジア防災研究センターを訪問しました。センター長の三谷先生の研究室には福井高専の卒業生が研究員、舞鶴高専や明石高専の卒業生も修士課程の学生として在籍しており親近感が湧きました。九州大学の特徴や魅力について、詳しく教えて頂きました。この旅行では、国土交通省の仕事や建築設備、大学の雰囲気等、直接自分の目で見て、肌で感じることができました。研修旅行は、自分の進路を考える上でとても楽しく有意義であり、良い思い出になりました。



校外研修について

校外研修について

2E 山浦 直樹

私たち2年生は、様々な分野の職業について、現場を見て将来を考えるために校外研修を行いました。「高専で学んだことがどのように生かされているか?」「働くとはどういうことか?」などについて、体系的に学びました。

松浦機械製作所では、金属3Dプリンタを製造する過程を見て、そこで働く人たちはどのようなことをやっているか、また工学知識がどのように生かされているかなどを理解しました。お話をなには、「品質工学」という言葉が何回も出てきました。企業は、専門分野に限らず、幅広い分野に長けた社員を必要としていることがわかりました。

次のサカイエルコムでは、主に制御盤と、それに対応するPLC(プログラマブルコントローラ)を作成されている方から説明をうけましたが、高専で学んだ内容との関連がある作業について、馴染みのある目線で見学することができました。

校外研修を通して、「自分は技術者または研究者になろうとしている」という自覚が深まりました。また、「高専で学びたい理由が当初とは違ってきた」と思うようになりました。それは、工学の本当の素晴らしさを知ったからだと思っています。



校外研修

校外研修について

ものづくりへの視点

2C 水野真弥

私たち2Cは校外研修で、菊姫合資会社と福井環境事業株式会社 二日市リサイクルセンターに行ってきました。

菊姫では、実際に清酒製造の現場を見せていただき、日本の伝統ともいえる酒造りを身近に感じることができました。また、それと同時に酒造りのあらゆる作業において科学技術が使われていることも見えてきました。「素材」「環境」「技術」を用いてそれらを扱う立場である「人」これらが酒造りには必要だと教えていただきました。そして今後、酒造りのプロセスを次世代に繋げるために科学技術が大切になるということも教わりました。

二日市リサイクルセンターでは、ゴミ処理の実態を知り、科学技術の必要性だけではなく、環境づくりについても考えさせられました。いくら科学技術が発展し、より良い処理法やリサイクル法が出来ても、環境に対する配慮が疎かであると環境破壊の実態は好転する事がないと思います。良い技術者になる前に、良い地球人であろうと思いました。そういう技術者が、人にも環境にも優しいものづくりができるのだと感じたからです。

今回の校外研修で、「人」「技術」「環境」という点からものづくりを見る事ができたと思います。

平成28年度 第2学年校外研修先一覧

研修日	学 科	研 修 先	引率者
10月26日(水)	機 械 工 学 科	村田機械株式会社 加賀工場 株式会社不二越	藤 田 卓 郎 藤 田 中 嘉津彥 藤 田 祐 介
	電 気 電 子 工 学 科	株式会社オーディオテクニカフクイ 北陸電力株式会社 松岡変電所	宮 本 友 紀 河原林 友 美
	電 子 情 報 工 学 科	株式会社松浦機械製作所 株式会社サカイエルコム	柳 小 原 越 祐 咲 柳 小 原 越 祐 咲
	物 質 工 学 科	菊姫合資会社 福井環境事業株式会社 二日市リサイクルセンター	山 加 本 裕 之 山 加 本 裕 之
	環 境 都 市 工 学 科	県営体育館建築工事／テニス場改修工事 家久大橋 橋梁整備工事	相 横 場 大 直 也 相 横 場 大 直 也

遠足

遠足について

いざ、金沢へ

F2 林 田 美 咲

私たちのクラスは、バスに乗って金沢へ行きました。短い時間の中、それぞれグループで計画を立てて金沢を満喫することができました。私のグループは近江町市場へ行き、海鮮丼を食べてから、ボリューミーなパンケーキを食べに行くという食べ歩きの旅でした。近江町市場の海鮮丼は何種類もの魚介類がのっていて、一枚一枚が新鮮でした。パンケーキは思わず何枚も写真を撮りたくなるようなおしゃれなパンケーキを食べることができました。金沢だからこそ食べられるようなおいしい食べ物を食べることができて大満足でした。

金沢は歩いているだけで楽しい気分になるような建物や自然が多く、さすが観光名所だなと感じました。特に金沢駅は何度見ても迫力が凄いです。平日でしたが、外国人も観光客もたくさん金沢駅の前で写真を撮っていました。

朝、学校に来た時から、帰る時まで一日中楽しむことができました。どんな事でも全力で楽しむことのできるこのクラスはとっても最高です。この仲の良いクラスで遠足に行くことができて本当によかったです。思い出に残る遠足にすることができました。

これぞ遠足

F5 山 本 光 眞

私達F5クラスは、福井駅周辺を散歩しながら、歴史的なものなどを見学してきました。まず初めに向った場所は、福井駅東口から徒歩十分ぐらいの所にある公園の地震学者、大森房吉博士の像をみました。次に、公園から足羽山のふもと付近にある公園の橋本左内先生の像を見てから、愛宕坂に行き、橘曙覽記年文字館に行きました。最後に、幾久公園を目指して歩きました。私達は10kmほど歩いたと思います。私は、これぞ「遠足」だと思いました。しかし、歩きすぎて少しだけ疲れました。だけど、幾久公園では木の陰で休み、こんな町の中でも、自然を感じられるのだなと思いました。

私はこの遠足を通して、先生を含めたたくさんの人達と交流することができました。学校ではあまり話さない人とも一緒に歩いているうちに会話が弾み、仲を深めることができました。また、先生とも気軽に話せて楽しかったです。さらに、福井にはとても偉人がたくさんいたことが、分りました。福井のことを新たに知れたのでよかったです。

私は遠足によってたくさんの良いものを得ることができました。楽しかったです。



留学生見学旅行・JOINTフォーラム

平成28年度外国人留学生見学旅行

名古屋での秋旅行

4E イズワン

平成28年11月3日に留学生研修会で、名古屋の東山動物園とトヨタ産業技術記念館を見学しました。

高専を出発して、2時間半ぐらいの旅で動物園に着きました。私にとり、10年以上前に訪れて以来です。バスを降りた後、皆が懐かしい表情をしながら、動物園の正門の前で集合写真を撮りました。その後、私達は自由行動をさせてもらいました。東山動物園の一番人気動物は「シャバーニ」という名前のゴリラだと知って、' save the best for the last' という英語のことわざにしたがい、そのゴリラを最後に見ることにしました。自由行動で昼食は自分達で探さなければならなかつたので、女子留学生のみんなに巻きすしをお弁当として作ってもらつていました。東山動物園は広さに対して、動物の数と種類も多いので、3時間で全部歩き回るのはとても無理でした。

次に私達はトヨタ産業技術記念館を見学しました。以前、トヨタといえば日本の自動車会社だと私

はずつと思っていました。だから、トヨタは元々繊維機械を作る会社だったと知って、非常に驚きました。この博物館は繊維機械館と自動車館の2部分に分けられています。また、「テクノランド」という遊び場があります。ここでは繊維機械と自動車に関係したオリジナル遊具で楽しく学べます。また、幼児向けのキッズコーナーや子供ライブラリーも併設しています。ただし、「テクノランド」の滞在時間は50分だけでした。

今回の見学は長時間の移動で疲れたが、懐かしい場所を再訪し、また新しい知識を得ることもできて、よかったです。

学生課教務係を始めとした関係の皆様には大変お世話になりました。どうもありがとうございました。



『地域連携JOINTフォーラム2016を開催』

平成28年12月7日（水）、武生商工会議所を会場として「JOINTフォーラム2016」を開催しました。

本フォーラムは、本校と福井県内の産官学金関係との結びつきを深めることを目的として、地域連携テクノセンター主催で毎年実施しているものです。「福井高専における産官学金連携の取り組み」をメインテーマとして掲げ、地元企業、本校の教育研究支援組織「地域連携アカデミア」会員企業の皆さんをはじめ本校教職員なども含めて合計85名の参加がありました。

松田校長の開会挨拶に続き、公益財団法人ふくい産業支援センター主任研究員 松井 多志氏による特別講演が行われ、「ふくい宇宙産業創出研究会」の取り組み状況についてご講演いただきました。続いて本校に今年度新たに加わった教職員の研究シーズ紹介、及び地域連携アカデミア会員企業による会社概要の紹介としてテーマセッションとポスター発表

などを行い、これらを通じて参加者同士で活発なディスカッションにより相互理解の促進に努めました。

地方創成はこれから日本社会を語る上で欠かすことの出来ないキーワードとして重要度が増しています。これに呼応するように、高専としての地域への貢献がますます求められていると思います。本フォーラムをきっかけとして多方面での交流を活発に行い、地域社会との連携活動がますます深化していくことを祈念しています。



コンテスト表彰式・中学生の皆さんへ

第22回 マグネットコンテスト表彰式を実施

平成29年2月8日（水）、本校コミュニティプラザにおいて「第22回マグネットコンテスト」入賞者の表彰式を執り行いました。

同コンテストは本校のものづくり教育の一環としてレア・アースマグネットの世界的生産拠点である信越化学工業（株）武生工場様のご協力をいただいて平成7年度から実施しているもので、今回が第22回目になります。磁石を使ったアイディアを募集したところ、県内外の小中学生や高校生、高専生、大学生などから総数1,542件もの作品が寄せられました。

厳正なる審査の結果、最優秀賞から佳作まで23作品が選ばれ、そのうち最優秀賞を含めた受賞者4名が表彰式に出席してくれました。表彰式の後で審査員からアイディアに対する講評などがあり、将来ものづくりに関わっていく上でのアドバイスやエールが送されました。式の後に受賞者の保護者も交えた懇談会を実施しました。席上で受賞者への質問タ

イムがあり、今回の応募の経緯やアイディアをまとめる上で自分が特に苦労した点などを答えていました。そこで緊張しながらもしっかりと受け答えする受賞者の姿が実際に微笑ましく、和やかな雰囲気で無事終了しました。

このコンテストは来年度も実施する方向で検討をしているところです。多くの皆さんのユニークなアイディアがたくさん寄せられることを心から期待しています。



中学校だより

ボランティア活動を通した学校づくり

越前市武生第三中学校

本校は昭和27年4月1日に、武生市国高中学校と今立郡北新庄村北新庄中学校を合併し、「武生市北新庄村組合立武生第三中学校」として開校して以来、平成28年度で64年目を迎える。

昭和29年7月5日に、「武生市武生第三中学校」、平成17年10月1日には市町村合併に伴い、現在の「越前市武生第三中学校」と改称した。途中平成8年4月1日の「万葉中学校」開校に伴い、北日野地区・北新庄地区の生徒が大量に転出することになり、現在では最大時の約半数に当たる370名ほどの生徒が在籍している。

本校は越前市中央部に位置し、村国山と日野川の清流を前にした豊かな自然環境に恵まれている。生徒は素直かつ明るく活発で、部活動や生徒会活動、学校行事などに主体的に取り組んでいる。福祉・ボランティア教育を柱として、キャリア教育、NIEやICTを活用した教育を加味しながら、自ら学び、豊かな人間性を持つ生徒の育成に取り組んでいる。福祉に関する体験活動や赤ちゃん抱っこ体験学習も活発であり、活動を通して思いやりの気持ちを育む

とともに、命を大切にする教育も推進している。

特に毎年11月3日に実施されている、越前市主催「菊花マラソン」でのボランティアは、今年で14回目になり、ブラインドランナーの伴走、運営協力、沿道応援等、多くの生徒が参加するなど、大きな行事になっている。この活動は、家庭や地域にも伝統として浸透しており、参加したランナーや主催者等からも高い評価を受け、学校づくりの柱の中心に位置付けられている。



中学生の皆さんへ・学園通信

平成29年度 入学者選抜について

平成29年度入学者選抜は、推薦選抜が1月22日(日)に本校で、学力検査が2月19日(日)に本校、福井市地域交流プラザ、敦賀商工会議所及びひこね燐ばれすで理科、英語、数学、国語、社会の5教科により実施された。

2月23日(木)午後1時に205名の合格者を本校掲示板及びホームページ上に掲載した。合格者205名のうち、県外合格者は17名(石川県1名、滋賀県11名、岐阜県2名、京都府2名、兵庫県1名)であった。

平成29年度入学者選抜実施状況一覧

学科	募集人員	志願者数			合格者数		計
		推薦	学力検査	倍率	推薦	学力検査	
機械工学科	40人	21(1)人	28(4)人	1.23倍	19(1)人	22(2)人	41(3)人
電気電子工学科	40	17(2)	25(2)	1.05	17(2)	24(2)	41(4)
電子情報工学科	40	28(1)	36(4)	1.60	19(1)	22(2)	41(3)
物質工学科	40	21(11)	20(8)	1.03	19(10)	22(5)	41(15)
環境都市工学科	40	27(11)	38(11)	1.63	19(10)	22(8)	41(18)
合 計	200	114(26)	147(29)	1.31	93(24)	112(19)	205(43)

(備考)(1)()内の数字は、女子で内数。(2)倍率=志願者(推薦+学力検査)÷募集人員

(3)合格者数については、第2志望、第3志望による合格者も含む。

退職にあたって



定年退職を迎えて

一般科目教室(自然科学系)

島田 茂

福井高専に赴任して迎えた最初(?)の卒業式での卒業生代表答辞の一文を紹介します。

「夢のある人は目標がある」

「目標のある人は計画がある」

「計画のある人は行動がある」

「行動のある人は結果がある」

「結果のある人は反省がある」

「反省のある人は進歩がある」

「進歩のある人は夢がある」

この卒業生代表のご子息も今春卒業される。と同時に私もいよいよ定年退職を迎えることになり、不思議なご縁を感じています。

赴任当時に高専教育を親身になって教えて頂いた

一般科目の諸先生方に支えられ、専門学科の先生方のお世話で学生達と様々な工場や企業を訪れ見聞を広め、日本の社会構造の一端を垣間見れた事は今でも財産になっていると感謝しております。

学生諸君からは授業(保健体育)やホームルーム活動、部活動(陸上・テニス)で多くの事を学ばせてもらいました。プールでの水泳授業は、学生にとっても私にとっても思い出がたくさん詰まった学習活動でした。

「合格!おめでとう!」泳ぎ切った達成感を全身で表現する学生。そのプールも昔は緑色の池のようでしたが、今ではリニューアルされ、マリンブルーの美しいプールとなり、少し薄暗かった第二体育館はLEDライトの眩しさが!冬にはダイヤモンドダストよろしく粉雪が舞っていた第一体育館の窓は明るいサッシに暖かな陽射しが照りつけ、玄関は自動ドアに。素晴らしい施設環境で最後の授業を迎えることができました。長い間皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

学園通信



退職にあたって

一般科目教室（人文社会科学系）

廣重 準四郎

昭和63年10月に赴任して以来、平成への改元やベルリンの壁の崩壊、2度の大震災、さらにはイギリスやアメリカでの驚天動地の出来事といった内外での激動を目のあたりにしながら福井に腰を据え、この3月で定年を迎えることとなりました。名前に同じ「福」の字を持つ県に生まれたのが縁となったのかもしれません、人生の中盤以降を「日本でいちばん幸せな県民」の一人として過ごすことができまして感無量です。

在職中は授業や自分の研究以外にも様々な仕事を経験させていただきました。中でも、都合6回、通算で12年の担任についてはあれこれ思い出深く、

同じような気持ちでいまだに年賀状を送ってくれる卒業生もいるようです。一般科目教室の教員の特権は様々な学科の担任ができるのですが、その特権を最大限に利用してすべての学科の担任を経験し、いわゆる「グランド・スラム」を達成できたのが密かな自慢ではあります。

キャンパスの一番北にある建物の中で北側に位置するという研究室のロケーションも大変居心地の良いものでした。「一生陽の当たらない研究室だ」などと嘯きつつ書物や資料に囲まれて暮らしたこの28年余りは、自分の人生において最良の日々であったとつくづく感じます。

決して短くはない年月を教員として曲がりなりにも勤めあげられようとしているのも、ひとえに保護者各位ならびに教職員の方々の御理解と御助力のおかげです。末筆ながら心より御礼申し上げます。

本校に着任して



本校に着任して

総務課 総務係

吉田 遥

1月より総務課総務係に着任しました、吉田と申します。大学では文系の学部に進学したため、廊下に掲示されている学生さんの研究発表のポスター や、学生さんが制作したロボットなどの展示、研究室に置かれている3Dプリンタなどの設備がとても新鮮に感じ、見かける度にわくわくしています。まだまだ社会人としては未熟で、総務係の業務についてもわからないことばかりですが、少しでも早く業務を覚え、福井高専の更なる発展のために尽力して参ります。ご指導の程、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



学園通信

平成28年度 留学生懇親会

留学生主任 原 口 治

標記の会が昨年12月11日(水)夕刻に本校食堂で開催された。松田校長を始めとした本校関係教職員のご出席だけでなく、平素より大変お世話になっている鯖江市国際交流協会諸氏にもお忙しい中ご臨席を賜り、会は一段と盛況なものになった。

留学生たちはこの日のために入念な準備を重ねた。流暢な「日本語」で祖国の紹介をする彼らの姿や、チューター学生と息の合った見事なグループアトラクション（カップコンサート）に一心に取り組む様子を目にし、遙か祖国をしばし離れた福井高専での留学生活を順調に送っているようだ、と私は胸をなで下ろした。留学生そして彼らを献身的にサポートするチューター学生のお身内は、このように素晴らしい様子を知ったらどんなにか喜んでくださることだろう、と確信した。来年度の彼らの成長ぶりが今から楽しみである。

特に、この三月で卒業予定のオバル君（タイ・M）とアリアさん（マレーシア・EI）は留学生のまとめ役としてこれまで頑張ってくれた。お二人の今後の活躍を心から祈りたい。

また、嬉しいことに、事務部学生課がご担当であ

る会場後片付けを、留学生とチューター学生も自主的に手伝ってくれた。このような行為が「日本らしい伝統的美德」として、留学生だけでなく日本人学生とも共有できれば、と願うばかりである。昨今、年齢にかかわらず自らの主張ばかりで他者に傾聴できない姿勢がクローズアップされるのは、日本の未来にとり実に嘆かわしいことだ。

福井高専が留学生を迎えるに相応しい高等教育機関であり続けるために、今後も関係各位のご尽力を伏して乞う次第である。

末筆ながら、本会開催に携わった関係各位、特に学生課教務係の皆様へ心からの謝意を表して本報告とする。



平成28年度福井工高等専門学校卓越した学生及び 学生表彰受賞者

平成28年度福井工業高等専門学校卓越した学生及び学生表彰受賞者の表彰状授与式は、本科5年生及び専攻科2年生は3月17日(金)に、その他の学年の学生は4月19日(水)に行う予定です。

福井工業高等専門学校卓越した学生

上村 海	5M	永野 法行	2PS
------	----	-------	-----

校長特別賞

●第51回全国高等専門学校体育大会・優勝(個人)			
◎卓球部(女子シングルス) 鈴木 優 4C			

校長賞

●第51回北陸地区高等専門学校体育大会優勝(団体・個人)				
◎陸上部(男子走幅跳)	鈴木 朋和	3E		
◎卓球部(女子団体)	藤田 瑞姫	5B	北川真由子	4M
	鈴木 優	4C	山貴 純恵	4B
	護城 歩	3Ei	黒河雅菜代	3B
	井山 棕香	2B		
◎競輪(好シンリス好ダブルス)	鈴木 優	4C		
◎卓球部(女子ダブルス)	藤田 瑞姫	5B		
◎水泳部(男子団体)	岩壁 駿	5M	高島 克典	5M
	中川 和優	5Ei	奥田 雄斗	5C
	斎藤 圭吾	5C	高橋 克哉	5B
	又農 智史	4E	奥山 瑠星	3M
	山根 圭悟	3M	横坂弘太郎	3Ei

校長賞

◎水泳部(男子団体)	立壁 涼虎	3B	佐々木祐輝	2M
	西島 晴玲	2Ei	三村 歩	2Ei
	定兼 拓永	2B		
◎水泳部(男子個人200m自由形・400m自由形・400mドレーリー)	立壁 涼虎	3B		
◎水泳部(男子個人100m平泳ぎ・200m平泳ぎ・400mドレーリー)	佐々木祐輝	2M		
◎水泳部(男子200m個人ドレー・400mドレーリー)	定兼 拓永	2B		
◎水泳部(男子個人400mドレーリー)	三村 歩	2Ei		
◎水泳部(女子団体)	宮本 紗樹	5B	八田 朱里	4C
	須藤はるか	3C	山本 悠衣	3B
	蓑輪 奈穂	2E	木戸 美月	2B
	橋本 莉乃	F5	小森加奈子	F4
◎水泳部(女子個人100m自由形・200mドレー)	八田 朱里	4C		
◎水泳部(女子個人(200mドレー))	宮本 紗樹	5B		
◎水泳部(女子個人(200mドレー))	橋本 莉乃	F5		
◎水泳部(女子個人(200mドレー))	蓑輪 奈穂	2E		
◎剣道部(女子団体)	早瀬 夏貴	4Ei	田中真紀子	3B
	佐々木まどか	2C	西村 心	F2
◎剣道部(女子個人)	西村 心	F2		
●アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2016 東海北陸地区大会「技術賞」受賞				
◎ロボット部 Aチーム (精巧蟹(セイコガニ))	小濱 真宏	4M	吉村 昂紘	4M
	藤戸 貴大	4Ei	松下 英都	2M
	山本 翼	2M	大瀬由符音	2Ei
	林 裕己	2E	山川 凌	3M
	齋藤 韶	3M		
●第3回G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール「シビックプライド賞」受賞				
◎辻野研究室 メンバー	高嶋 義	2ES	島野 竜成	2ES
	岡田 拓樹	1ES	奥田 祐女	5B
	宮野加奈子	5B	吉村 紗愛	5B
●第40回全国高等学校総合文化祭(吟詠剣詩舞部門) 優秀賞				
	鳥山 佳音	2B	土山 凜	F2
●オムロン・高専機構共同教育プロジェクト平成28年度生産技術コンテスト優勝				
	林田 剛一	5M	長田 一樹	3M
	山口 淳太	3M		

平成29年度教育後援会総会

次のとおり総会を開催いたしますので保護者の方はご出席下さい。

期日 平成29年4月6日(木) 正午から

場所 本校 第一体育館

会次第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 校長あいさつ

4. 報告事項

学校状況について

5. 審議事項

①平成28年度決算案について

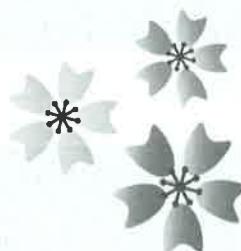
②平成29年度役員選出について

③会則の一部改正案及び支給要領案の制定について

④平成29年度事業計画案及び予算案について

⑤その他

6. 閉会



平成28年度学校行事



キャンパスプロジェクト発表会①



キャンパスプロジェクト発表会②



交通講話



性教育



税と社会保障の講演会



服育